

言霊が人間の行動に及ぼす影響に関する研究

山崎 祐樹

本論文では、「言霊」の存在について論じる。「言霊」には、それを自分が受け取るというところに軸足を置くとすれば2つの側面があると理解できる。すなわち、1つの側面は自分が発した言葉による自分への影響であり、今一つは他人が発した言葉による自分への影響である。本論文では、他者が発した言葉が自己にどのような影響を及ぼすのかという点に軸足を置き検討する。

「言霊」とは、言葉に宿っている不思議な霊威であり、古代よりその力が働いて言葉通りの事象がもたらされると信じられてきた。つまり、自己に都合の良いことを言葉にすれば、都合の良い結果が生まれ、都合の悪いことを言葉にしたら、都合の悪い結果が生まれるということになる。ここでは、筆者が独自に「言霊の影響がない言葉」「自己の言葉の言霊」「他人の言葉の言霊」の3つに分類し、さらに「他人の言葉の言霊」を「全くの第三者からの言霊」「認知している他人からの言霊」に分類した。

日本のプロ野球を対象にした研究とアマチュアスポーツに対するインタビュー調査より、競技歴が長い選手の成績とそれが短い選手の成績で差が見られたり、競技歴が長い選手のほうが対人関係に対する慣れから、言葉の受け取り方に違いが生まれる結果が得られた。

以上のことから、言霊の影響には「慣れ」が大きく関わっており、「環境に対する慣れ」「対人関係に対する慣れ」「言葉に対する慣れ」の3つが言霊に深く関わっていることが明らかになった。